

指揮・総監督 井上道義 インタビュー

コロナ禍を乗り越えて、井上×野田のオペラが5年振りの再演へ

2015年に全国10都市14公演され、大きな話題を呼んだ『フィガロの結婚』について、再演の稽古真っ最中の井上道義に本作にかける思いをうかがった。

稽古現場はPCR検査で陰性が確認された関係者しか立ち入れないという厳戒態勢。しかし出演者みな、久々の舞台とあって、稽古ができる歡びに溢れていたようだ。

「自主的に5年前の稽古の状態に戻して、そこからもう一度5年後の自分たちをもっと生かしていこうとする古い人たち(初演時からの出演者)と、そこに入ろうとしている新しい人とが、いい感じで動いているのが感動的で……」

野田演出の肝となるのは、「伯爵」「伯爵夫人」「ケルビーノ」の3名だけが黒船でやってきた西洋人で、残りの全員が日本人という設定(だから名の表記がフィガロなど変更されている!)。西洋人役のキャストだけは実際に海外から招聘する予定だったが、このご時世で変更。伯爵夫婦には日本在住のロシア人ユシュマノフと、ドイツと日本の両親をもつドルニオクを起用することになったのだが、ケルビーノだけは西洋人顔ではないカウンターテナー村松稔之が演じるようになった。本来はメ

ゾソプラノが歌うケルビーノ役を男性が歌うというのも井上と野田のこだわりポイントだ。「身体や心の変化を自分でコントロールできない若い男の役であるはずなのに、女性が歌うとムチムチして、声もふよよかになってしまう。もう物事が分かっちゃってるような声じゃ、しょうがないし、カウンターテナーでも西洋人だとガタイがよくなっちゃう。オペラでは皆が我慢して、少年役だということで見ただけど、どうしてもそう見えない。だから今回、細身の村松君がうまくいけば、はまるかなと」

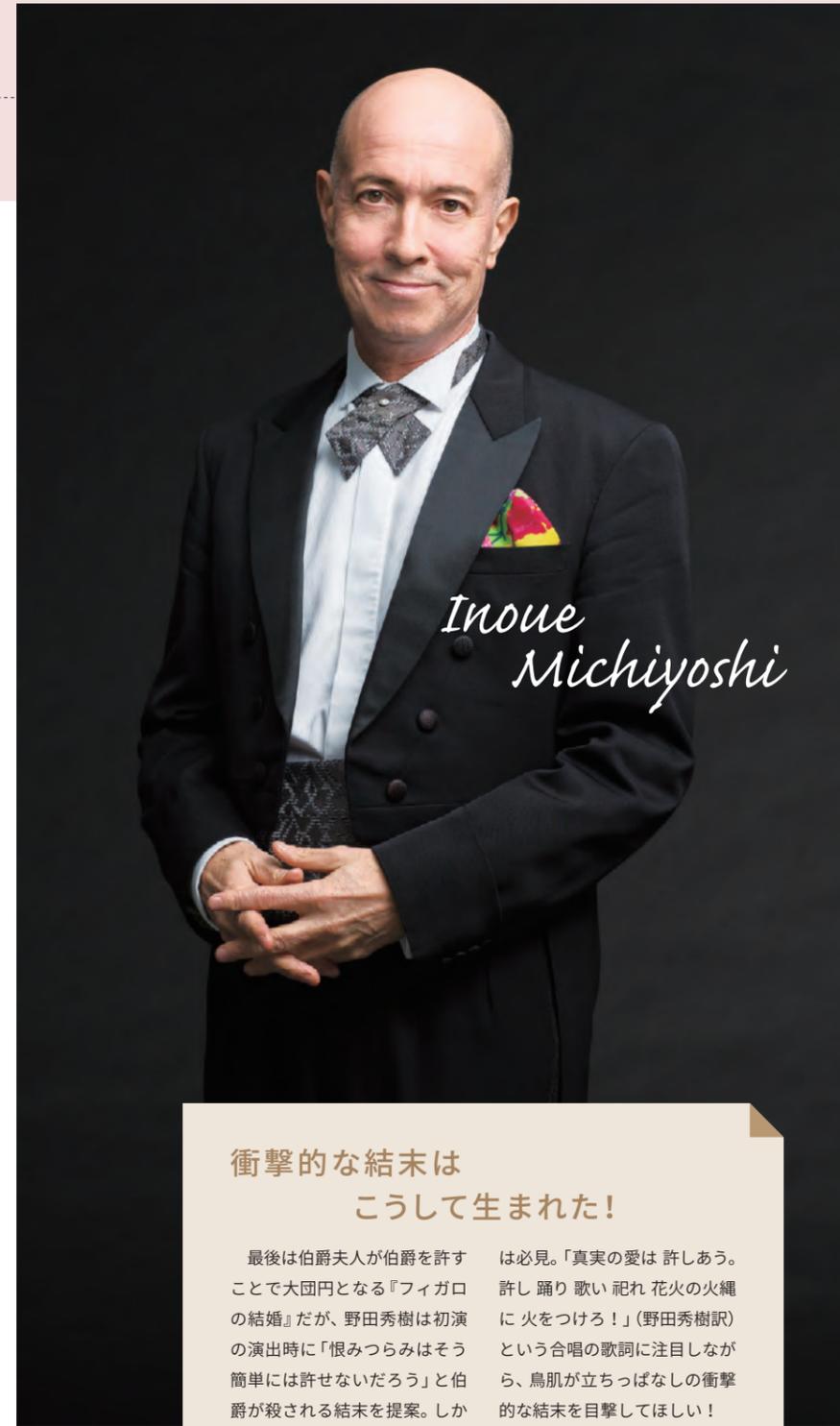
このように、今までのオペラでは観客が目をつぶることで良しとされてきた演劇的リアリティの欠如にメスをいれ、オペラのお約束ごとを納得できない観客にも魅力が伝わるようにしよう……というのが総監督である井上の狙いだ。

「簡単にいえば野田さんの演出は、程度を下げず、(あえて)敷居も低くせずに、オペラを楽しむための“パスワード”を教えてくれているん

です。一度なかに入ってしまったら、多少分からないことがあっても、面白いなって言ってもらえるはず。僕ら指揮者や演出家は、歌手が草花や蜂だとすれば、彼らが元気に育つように水や肥料をやるのが仕事。(副題にもなっている)“庭師”っていうのはアントニオ男だけでなく、僕自身や野田さんのことでもある。作曲家や台本作家が書いたものを、メッセンジャーとしてお客さんに分かるように伝え、楽しませるのが庭師ですから」

2015年と今年ではこの演出の見え方も大きく違って来るであろうことにもご注目いただきたい。劇中で伯爵が行きしようとする初夜権を、2017年以降に世界的なムーブメントとなった#metoo運動と重ねてみれば、作品自体は喜劇でありながらも、内容は簡単に笑い飛ばせる内容ではなくなってしまった。そんな時代に相応しい衝撃結末(※右記参照)を伴う『フィガロの結婚』～庭師は見た!～を、絶対に見逃すな!

取材・文:小室敬幸(音楽ライター)

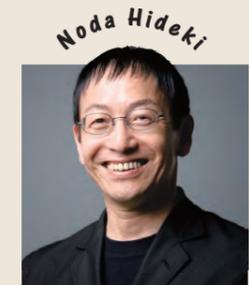


Inoue Michiyoshi

衝撃的な結末はこうして生まれた!

最後は伯爵夫人が伯爵を許すことで大団円となる『フィガロの結婚』だが、野田秀樹は初演の演出時に「恨みつらみはそう簡単には許せないだろう」と伯爵が殺される結末を提案。しかし井上が「これはヴェルディの悲劇じゃない!喜劇なんだ!」と完全拒否して喧嘩寸前に……。最終的には絶妙な落とし所をみつけて初演をむかえ、今回もそのように再演される予定だ。野田自身も「これでよかった」と語るほどの見事なラスト

は必見。「真実の愛は許しあう。許し 踊り 歌い 祀れ 花火の火縄に火をつける!」(野田樹樹訳)という合唱の歌詞に注目しながら、鳥肌が立ちっぱなしの衝撃的な結末を目撃してほしい!



Noda Hideki



10月30日 金 18:30開演
11月1日 日 14:00開演
コンサートホール 詳細はHPへ

指揮・総監督:井上道義
演出:野田秀樹
出演:
アルマヴィーヴァ伯爵 ヴィタリ・ユシュマノフ
伯爵夫人 ドルニオク綾乃
スザナ(スザンナ) 小林沙羅
フィガロ(フィガロ) 大山大輔
ケルビーノ 村松稔之
マルチェリナ(マルチェリーナ) 森山京子
バルト郎(バルトロ) 三戸久
走り男(バジリオ) 黒田大介
狂っちゃ男(ドン・クルツィオ) 三浦大喜
バルバリーナ(バルバリーナ) コロンエリカ
庭師アントニオ(アントニオ) 廣川三憲
花娘 藤井玲南、中川郁文

声楽アンサンブル:藤井玲南 中川郁文
増田弓 鳥谷尚子 新後閑大介 平本英一
東玄彦 長谷川公
演劇アンサンブル:上村聡 川原田樹
菊沢将憲 近藤彩香 佐々木富貴子
末富真由 花島令 の場祐太

合唱:ザ・オペラ・クワイア
管弦楽:ザ・オペラ・バンド

Vitaly Yushmanov



アルマヴィーヴァ伯爵

Durniok Ayano



伯爵夫人

Kobayashi Sara



スザナ(スザンナ)

Oyama Daisuke



フィガロ(フィガロ)

Muramatsu Toshiyuki



ケルビーノ

Moriyama Kyoko



マルチェリナ(マルチェリーナ)

Sannohe Hirohisa



バルト郎(バルトロ)

Kuroda Daisuke



走り男(バジリオ)

Miura Taiki



狂っちゃ男(ドン・クルツィオ)

Colon Erika



バルバリーナ(バルバリーナ)

Hirokawa Mitsunori



庭師アントニオ(アントニオ)

Fujii Rena



花娘

Nakagawa Ikumi



花娘